

取組宣言



市長による取組宣言



白石代表理事による説明



書簡の提出



日本セーフコミュニティ推進機構へ提出した書簡

モデル地区の設置



交通安全教室の実施



認知症講演会の実施



運動能力の向上の活動



小学校内の危険箇所  
マップの掲示場所の検討



住民の避難状況の把握

交通安全 → 吉野小学校区  
高齢者の安全 → 皇徳寺台東町内会  
子どもの安全 → 吉田南幼稚園等（4団体）  
学校の安全 → 平川小学校  
防災・災害対策 → 高免町町内会

※DV防止、自殺予防については、  
モデル地区の設定になじまないため、当初から全市を対象とした。

プレ現地審査



市長との会談



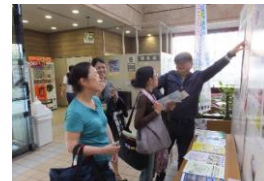
活動発表  
外傷サーベイランス委員会



審査員による全体講評



歓迎レセプション



パネル展の視察



審査員、発表者との集合写真

現地審査



セーフコミュニティ  
推進協議会の会員の皆様



シートベルト衝撃体験の実施  
交通安全対策委員会



道路環境の視察  
交通安全対策委員会



平川小児童による活動発表  
学校の安全対策委員会



平川安全マークの紹介  
学校の安全対策委員会



吉田幼稚園の園内視察  
子どもの安全対策委員会



転倒予防教室の視察  
高齢者の安全対策委員会



活動発表状況  
DV防止対策委員会



活動発表（英語）状況  
自殺予防対策委員会



桜島の視察  
防災・災害対策委員会

国際認証取得



認証式の状況



合意書の署名



合意書



認証時の集合写真



認証盾の受領



認証盾

再認証に向けた事前指導



市長との会談



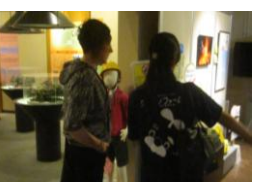
取組内容の説明



審査員による講評



黒神埋没鳥居の視察



桜島ビジターセンターの視察



パネル展の視察

再認証審査



国内初のオンラインによる認証審査を実施



再認証式



合意書の署名



認証時の集合写真

取組宣言から13年間、ありがとうございました。  
関係団体、地域の皆様に支えられて、  
国際認証を取得することができました。  
今後も、関係団体、地域の皆様と連携  
しながら安全で暮らしよいまちづくりを進  
めていきます。



マグマシティPRキャラクター マグニョン

# 鹿児島市の重点7分野等の取組と成果

①交通安全

【目標】

- 自動車による交通事故減少
- 高齢者の交通事故減少
- 子ども（高校生以下）の交通事故減少



【主な取組】

子ども向け交通安全教育等

模擬信号機、横断歩道を活用した歩行訓練や自転車シミュレータ等を活用した自転車の安全利用等を実施して、交通安全の意識を高めました。

自転車シミュレータの実施状況

高齢者向け参加・体験型の交通安全教室等

歩行シミュレータの活用、夜光反射材効果体験や自動車シミュレータの活用、安全運転サポートカーの体験を実施して、交通安全の意識を高めました。

安全運転サポートカーの体験状況

【主な成果】

子ども（中学生以下）の交通事故死傷者数

2013年153人

77.1%減少

2024年35人

※鹿児島県警察本部（交通企画課）調べ

高齢者の交通事故死傷者数

2013年694人

67.0%減少

2024年229人

※鹿児島県警察本部（交通企画課）調べ

②学校の安全

【目標】

- 小学校の校内等でのけがの減少
- 中学校の運動部活動でのけがの減少



【主な取組】

小学校での取組

児童が主体となった校内パトロールの実施や危険箇所マップづくりに取り組み、児童のけが防止に対する意識と行動を高めました。

危険箇所マップの作成状況

中学校での取組

生徒が主体となったキャプテン会議の実施、練習前後の用具点検、入念な準備運動の実施に組み、生徒のけが防止に対する意識と行動を高めました。

練習前の準備運動の状況

【主な成果】

校内パトロールの実施校数（小学校）

2017年度43校

88.4%増加

2024年度81校

※保健体育課調べ

モデル小中学校でのけがの発生件数

2023年度63件

25.4%減少

2024年度47件

※日本スポーツ振興センター調べ

③こどもの安全

【目標】

- 家庭内等での事故・けがの減少
- 子育て中の親への支援



【主な取組】

家庭内等での事故・けが等に関する情報発信

保護者に対して、家庭内等での安全対策についての情報発信や、家庭内の危険箇所マップを配付するなど、子どもの事故・けがの予防に対する意識啓発に努めました。

家庭内の危険箇所マップの作成

体力・運動能力の向上を目的とした活動

幼稚園、保育園等での生活の中に、体力や運動能力の向上を目的とした活動を取り入れ、運動を調整する能力を高め、けがの予防につなげました。

体力・運動能力の向上の活動

【主な成果】

家庭内等での事故・けがに関する情報の発信を行っている団体

2014年度2団体

35.5倍に増加

2024年度71団体

※こども政策課調べ

園内での児童の事故・けがが人数（1団体あたり）

2015年度8.5人

55.3%減少

2024年度3.8人

※こども政策課調べ

④高齢者の安全

【目標】

- 転倒や窒息による不慮の事故の減少
- 虐待や認知症への啓発・理解の促進



【主な取組】

転倒予防及び口腔機能低下予防教室の実施

転倒につながる身体機能低下を予防するための転倒予防教室や窒息、誤飲・誤嚥を予防するための口腔機能低下予防教室を行い、不慮の事故防止に努めました。

転倒予防教室の実施状況

認知症サポーター養成講座の開催

認知症について正しく理解し、認知症の方と家族を応援する「認知症サポーター」を養成しました。

講座の実施状況

【主な成果】

転倒予防教室の参加者数

2014年度5,013人

2.1倍に増加

2024年度10,483人

※保健予防課調べ

認知症サポーター数（累計）

2015年度32,189人

1.9倍に増加

2024年度60,649人

※認知症支援室調べ

⑤DV防止

【目標】

- DVの正しい理解と気づきの促進
- 若年者に対する予防啓発の充実



【主な取組】

市民全般向けのDV防止のための活動

カードサイズDVリーフレットを作成し、公共施設や商業施設等に設置しているほか、毎年11月にはパープルリボンキャンペーンを実施しました。

かごしま水族館のライトアップ

若者向けのDV防止のための活動

デートDVについて学んでもらうため、学生を対象とした講演会や大学生による中高生向け講座を開催しているほか、啓発誌を作成し、配付しました。

講座の実施状況

【主な成果】

相談先の認知度

2013年度44.9%

35.7ポイント増加

2022年度80.6%

※事故やけがに関するアンケート

20歳代のDV被害経験者の割合

2010年度25.5%

10.3ポイント減少

2020年度15.2%

※男女共同参画に関する市民意識調査

⑥自殺予防

【目標】

- 中高年（50～69歳）の自殺者数の減少



【主な取組】

ゲートキーパー養成講座の開催

自殺に関する正しい知識の普及や、悩んでいる人に気づき、必要な支援につなげ見守る「ゲートキーパー」を養成し、地域全体で自殺予防を行いました。

講座の実施状況

相談窓口の周知

無料相談窓口カードを市役所や病院、薬局、遊技場、コンビニ、銀行などさまざまな場所に設置し、広く相談窓口の周知に努めました。

相談窓口一覧表の作成

【主な成果】

鹿児島市の自殺者数

2013年度111人

35.1%減少

2023年度72人

※かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）

鹿児島市の自殺死亡率（人口10万人当たりの自殺者数）

2013年度18.3%

6.0ポイント減少

2023年度12.3%

※かごしま市の保健と福祉（人口動態統計）

⑦防災・災害対策

【目標】

- 桜島地域における避難体制の再構築



【主な取組】

避難訓練の充実強化

桜島火山爆発総合防災訓練（住民避難訓練、避難所体験・展示訓練）を実施し、住民への避難計画等の説明を実施するとともに、関係機関等との連携の強化に努めました。

避難訓練の実施状況

避難行動要支援者の避難体制の確立

住民避難訓練において、町内会、民生委員、消防団による協議を通じた避難行動要支援者等の避難支援方法や避難状況の報告要領を確認し、避難体制の強化を図りました。

要支援者に関する3者調整会議

【主な成果】

桜島地域における避難マニュアルの認知度

2016年度71.0%

7.5ポイント増加

2022年度78.5%

※事故やけがに関するアンケート

桜島地域における自力避難できない人の把握率

2016年度92.0%

12.9ポイント増加

2024年度104.9%

※危機管理課調べ

外傷サーベイランス委員会

【取組】

- 外傷データの収集・分析や、取組の評価



【主な取組】

アンケート調査等の分析と評価

7つの対策委員会は、具体的な活動を進め、外傷サーベイランスは、データの収集や専門的な評価を行いました。

委員会の実施状況

救急搬送、医療データの活用

学識経験者、警察、消防等から構成される委員会において、外傷の発生状況を把握する仕組みを構築し、データに基づく、課題の設定、改善に努めました。

変遷トップ3

平均医療費

設備部大損近位骨折

約147万円

胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰損傷を含む。）

約120万円

頭蓋・顔面内損傷

約70万円

令和5年度転倒受傷トップ3

【主な成果】

ハイリスク集団の見直し（交通事故死傷者の発生状況を分析）

2013年度

夜間・歩行中の高齢者

年々減少傾向が判明し、高齢運転者を第1当事者とする交通事故死傷者の割合が増加

2017年度

高齢運転者